

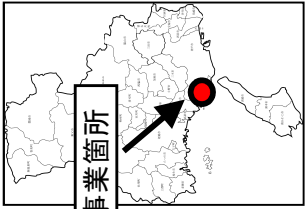
部課室名	土木部道路街路課		記入責任者職氏名 (担当者氏名)	道路街路課長 志茂 大輔 (国道・橋梁班長 吉田 頼彦)		内線	4362 (4378)
事業種目	道路事業	新規評価年度	平成15(2003)年度		現計画	前回評価時点	
事業名	国道2号 〔和坂拡幅〕	事業採択年度	平成16(2004)年度	総事業費	140億円	105億円	
		着工年度	平成16(2004)年度	内地地補償費	55億円	68億円	
		再評価年度	平成25(2013)年度 平成30(2018)年度	完成予定年度	令和12(2030)年度	令和7(2025)年度	
事業区間	明石市立石一丁目～和坂			進捗率 (用補進捗率)	55% (88%)	55% (53%)	
				残事業費	63億円	47億円	
事業の目的				事業内容			
<p>本路線は、大阪府大阪市を起点とし、福岡県北九州市に至る広域幹線道路であり、第二神明道路、国道175号、国道250号とともに、県南部の大動脈として、沿線地域の生活・産業を支える重要な路線である。</p> <p>○交通渋滞の解消 ボトルネック区間で、慢性的な交通渋滞が発生している現道を4車線化し、円滑な交通を確保する。</p> <p>○歩行者・自転車通行の安全確保 自転車専用通行帯の整備により、自転車・歩行者交通を分離させ、自転車利用者・歩行者の安全な通行を確保する。</p> <p>○社会・経済活動の支援 第二神明道路玉津ランプとJR西明石駅や臨海部の工場地帯へのアクセス性の向上及び、東播磨地域、神戸地域における東西の円滑な交通を確保し地域活性化を図る。</p>				<p>【延長】 1.3km</p> <p>【道路規格】 第4種第1級</p> <p>【計画幅員】 4車線 車道 13.0m〔全幅 29.0m〕 両側歩道 3.5m 両側自転車専用通行帯 1.5m</p> <p>【計画交通量】 27,400～30,000台/日〔R22 予測〕</p> <p>【現況交通量】 自動車：18,014台/日〔R3 センサス〕</p> <p>【負担割合】 国：55% 県：45%</p>			
事業を取り巻く 社会経済情勢 等の変化	<p>令和3年3月29日、国土交通省が管理する国道2号明石駅前交差点の改良(交差点西側の4車線化)が完成するなど、周辺幹線道路の整備が着々と進んでいる。</p> <p>【前回評価時点からの事業計画・総事業費・工期の変更概要】</p> <p>①林崎橋(JR跨線橋)の撤去について、JR協議の結果、作業時間に制約が生じたため、仮設備や列車見張員等にかかる費用が増加し、約13億円増額する。</p> <p>②建設資材価格や労務単価の上昇を受け、必要経費を計上するため、約35億円増額する。</p> <p>③当初想定よりも土地買収単価が下落しているため、約13億円減額となる。</p> <p>④用地買収の難航・JRとの調整に時間を要し、林崎橋(上り線)架け替え工事の着手が遅延したことにより、完了年度を令和12年度に変更する。</p>						
進捗状況	<p>【用地】平成17年度より用地取得に着手し、令和5年10月末現在で用地取得率は88%(面積ベース)である。本件区間は、令和4年8月30日に土地収用法に基づく事業認定が告示された。残用地は、任意交渉と並行して収用手続きを進め、早期取得を目指す。</p> <p>【工事】用地取得箇所から、順次工事を実施している。また、令和5年8月1日付けで林崎橋(上り線)の施工協定をJRと締結した。引き続き、早期完成を目指し工事を進める。</p>						
評価視点	評価結果の説明						
審査会意見及び対応方針 (H30年度再評価)	【審査会意見】継続妥当 早期に効果発現できるよう、交差点付近の改良を重点的に実施するなど、整備の進捗が難航していたが、令和5年2月に契約め方を検討し、早期完了に努められたい。			【対応方針】 和坂交差点付近の改良に必要な用地の交を締結した。事業効果発現のため、早期に和坂交差点付近の改良に着手する。			
(1)必要性	①本事業区間は、ボトルネック区間(前後4車線)になっており慢性的な交通渋滞(混雑度 1.6〔R3 センサス〕)が発生している。2車線から4車線に拡幅することにより、交通渋滞の解消を図る。 ②現道は、多くの歩行者(651人/12h)・自転車利用者(1,001台/12h)が通行しているが、歩道が未整備あるいは狭小であるため、過去5年間(H30～R4)に23件の歩行者・自転車関連の事故が発生している。このため、歩道及び自転車専用通行帯を整備し、安全な通行空間を確保する。						
(2)有効性・効率性 (執行環境状況)	①費用便益比B/C=2.1(前回評価時B/C=3.2)						
(3)環境適合性	①慢性的な交通渋滞を解消することにより、市街地の沿道環境が改善される。 ②歩道舗装には、雨水が地中に浸透する透水性舗装を採用し、地下水涵養を図る。 ③電線共同溝の整備により電線を地中化することで、良好な景観を形成する。						
(4)優先性	①緊急輸送道路であるため、強靱な県土の形成を進める上でも早期整備が必要である。						
再評価の結果	継続	左の理由	事業の必要性・有効性等は事業採択時と変わっておらず、当該区間の早期供用を望む地元の声が強いため、継続して事業を実施する必要がある。				

事業進捗状況概要図（継続：再評価〔第3回〕）

事業名	道路事業	路線・河川名	国道2号〔和坂拡幅〕
<p>【令和5年10月末時点】</p> <div data-bbox="159 224 1436 784"> <p>一般国道2号 和坂拡幅 延長L=1.3km</p> </div>			
<p>【標準横断面図】</p> <div data-bbox="383 828 1292 1276"> </div>			
事業進捗状況・予定		整備効果	
<p>全体 H16(2004) ～ R11(2029)</p>	<p>【事業費＝約140億円】 延長1,300m※ ※うち、林崎橋(JR跨線橋)47m(上下線) 用地：約13,580㎡、物件補償41件</p>		
<p>前回再評価 まで (実績)</p>	<p>【事業費＝約63億円】 事業進捗率：約45%、用地進捗率：約74% ・用地取得面積：約10,060㎡、物件補償：31件 ・林崎橋(下り線)の新設工事に着手</p>		
<p>過去 5年間 R1(2019) ～ R5(2023)</p>	<p>【事業費＝約14億円】 事業進捗率：約55%、用地進捗率：約86% ・用地取得面積：約11,690㎡、物件補償：8件 ・事業区間全線において、用地取得箇所から順次工事を実施</p>		
<p>今後6年間 (予定) R6(2024) ～ R12(2030)</p>	<p>【事業費＝約63億円】 ・令和12年度 全線拡幅・供用予定</p>		

道路事業 国道2号〔和坂拡幅〕

位置図



事業箇所

凡例

- : 事業区間
- : 高速道路
- : 国道
- : 県道
- : 公共施設、学校等
- : 交通量調査地点

出典：国土地理院図



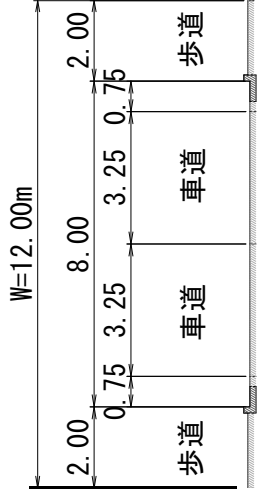
目的

- ①慢性的な渋滞の解消
- ②自転車・歩行者の安全な通行空間の確保

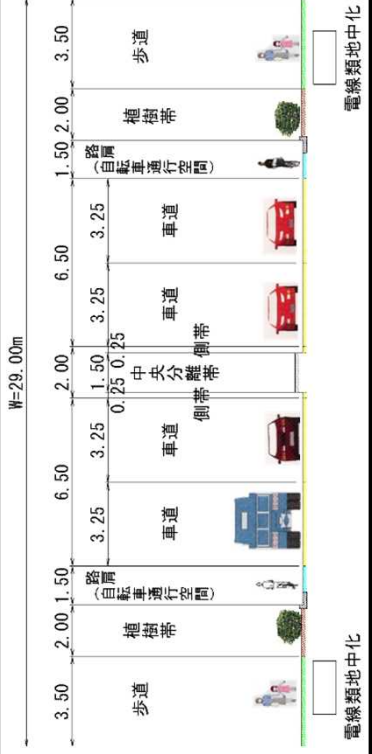
事業概要

事業区間：明石市立石一丁目～和坂
 総事業費：140億円
 内用地補償費：55億円
 事業期間：H16～R12
 事業概要：現道拡幅
 延長：1.3km
 費用便益比B/C：2.1(全体)

横断面



<現況>



電線類地中化

電線類地中化

事業の必要性・優先性

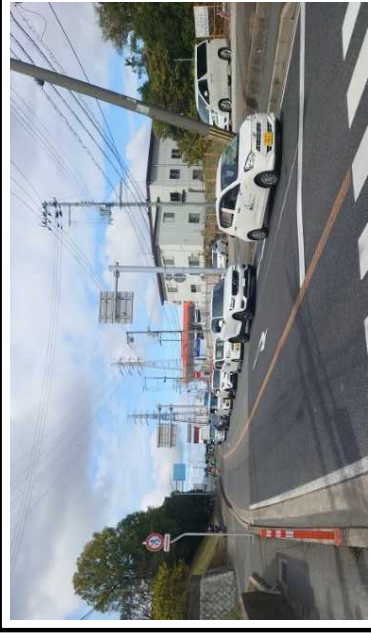
- ① 本事業区間は、ボトルネック区間(前後4車線)になっており慢性的な交通渋滞(混雑度1.6 [R3センサス])が発生している。2車線から4車線に拡幅することにより、交通渋滞の解消を図る。
- ② 現道は、多くの歩行者(651人/12h)・自転車利用者(1,001台/12h)が通行しているが、歩道が未整備あるいは狭小であるため、過去5年間(H30～R4)に23件の歩行者・自転車関連の事故が発生している。このため、歩道及び自転車専用通行帯を整備し、安全な通行空間を確保する。
- ③ 第二神明道路玉津ICとJR西明石駅や臨海部の工場地帯へのアクセス性の向上及び、東播磨地域、神戸地域における東西の円滑な交通を確保し地域活性化を図る。

現道の渋滞発生状況



現況写真

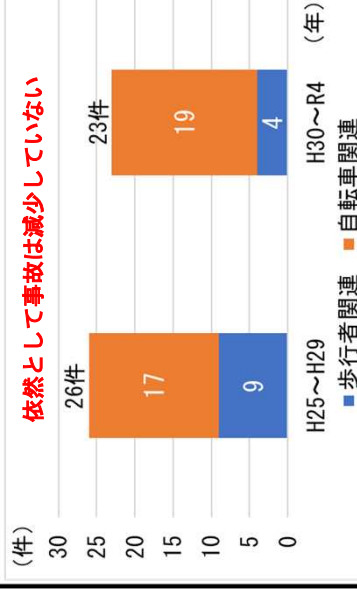
① 現道の渋滞状況(和坂交差点)



② 歩道状況(西明石5丁目交差点付近)



③ 歩行者・自転車関連事故件数の推移

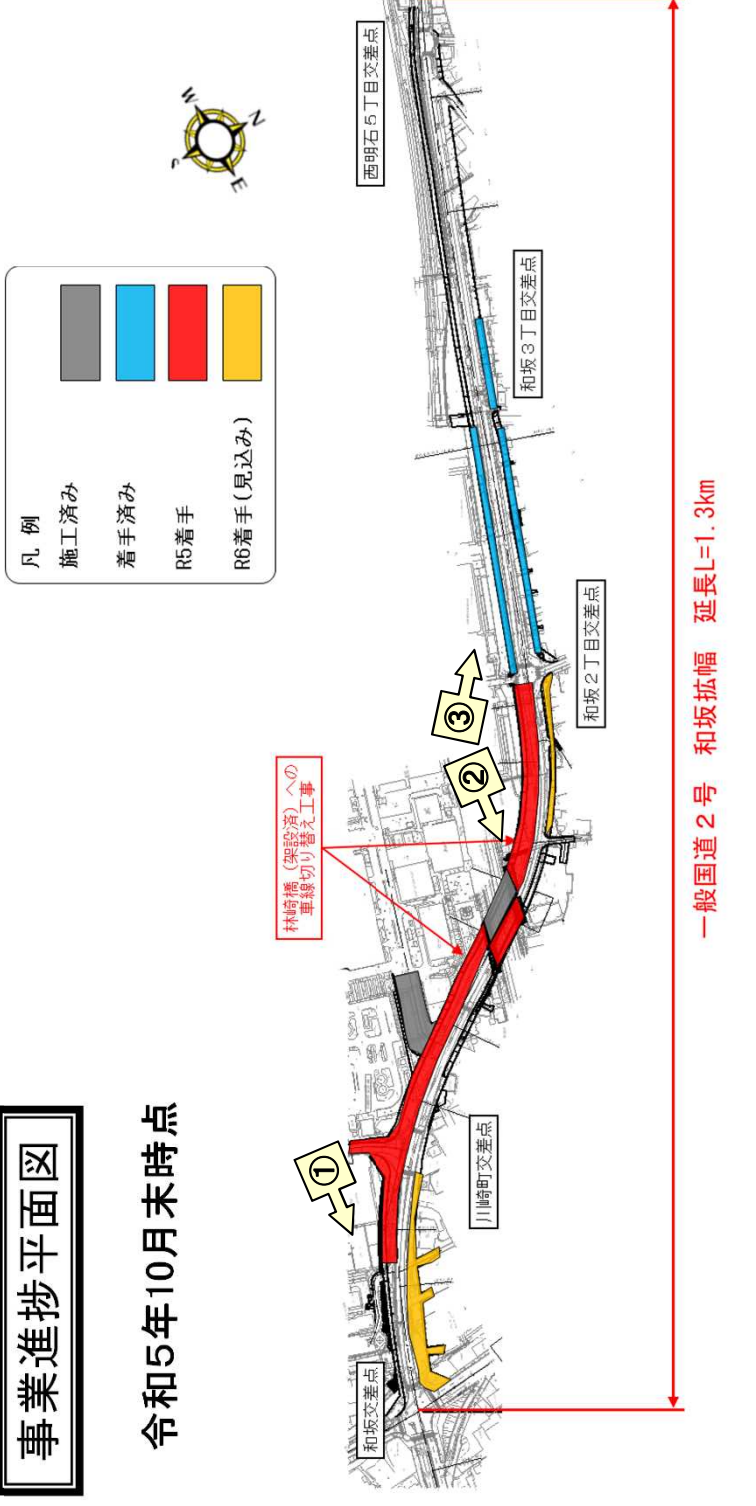


進捗状況

現況写真

事業進捗平面図

令和5年10月末時点



工程表

■ : 前回計画
■ : 実施・計画

工種	H16	H17	H18~H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	
調査・設計	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
用地補償	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
橋梁工事						■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
道路改良工事						■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■

①工事進捗状況(和坂交差点付近)



②工事進捗状況(林崎橋付近)



③工事進捗状況(和坂3丁目交差点付近)



事業の有効性・効率性

(1) 費用対効果

① 便益(B)の項目

評価の視点	効果項目(費用対効果の便益内容)
① 走行時間短縮便益 ○ 目的的地までにかかる時間が短くなることによる便益	整備無しの走行時間費用－整備有りの走行時間費用 走行時間費用：Σ(交通量×走行時間)×時間価値原単位×365日
② 走行経費減少便益 ○ 交通の流れがスムーズになり燃費などが向上することによる便益	整備無しの走行経費－整備有りの走行経費 走行経費：Σ(交通量×距離)×走行距離原単位×365日
③ 交通事故減少便益 ○ 交通事故が減少することによる便益	整備無しの事故損失額－整備有りの事故損失額 事故損失額：Σ(交通量×距離×交差点以外の事故損失原単位＋交通量×主要交差点数×交差点部事故損失原単位)

② 費用便益費(B/C)算出根拠

事業	事業名	B(便益)				C(費用)				B/C
		便益額(億円)				総費用(億円)	事業費(億円)	維持管理費(億円)	更新費(億円)	
道路事業	国道2号 〔和坂拡幅〕	全体事業費		305.15	時間短縮 5.2分 →2.0分 計画交通量 27,400 ～30,000台/日	156	154	2	-	2.1
		走行時間短縮便益	20.15							
		走行経費短縮便益	0.44							
		交通事故減少便益	325.74							
		計		325.74		52	50	2	-	6.3
		残事業費		305.15	時間短縮 5.2分 →2.0分 計画交通量 27,400 ～30,000台/日	52	50	2	-	6.3
		走行時間短縮便益	20.15							
		走行経費短縮便益	0.44							
		交通事故減少便益	325.74							
		計		325.74		52	50	2	-	6.3

(2)費用対効果に含まれない効果

評価の視点	効果項目	該当する事業内容等
①安全・安心の確保	災害時	○ 4車線化や無電柱化による災害時の緊急車両等の円滑な走行確保
	平時	○ 明石医療センター(周産期医療)へのアクセス向上 ○ 4車線拡幅による延焼防止機能の確保 ○ 明石医療センター(周産期医療)へのアクセス向上 ○ 歩道及び自転車専用通行帯の整備による歩行者、自転車の安全性確保
②地域の活性化		—
		—
③円滑な交通体系の確保		○ 臨海部の工場地帯へのアクセス向上
		○ 明石公園(明石城)へのアクセス向上
④地域の環境改善		○ 明石市都市計画マスタープラン推進の支援
		○ JR西明石駅(JR山陽本線・山陽新幹線)へのアクセス向上 ○ 車道部の低騒音舗装、歩道部の透水性舗装 電線地中化の実施

(3)地域からの要望状況等

要望状況等	<p>①明石市から、本事業の早期整備を求める要望書が提出されている。</p> <p>②地元説明会では、渋滞や交通安全等の観点から、早期整備を望む声が非常に多い。</p>
-------	--